

港区立南山小学校

令和 6 年度 授業改善推進プラン

| | | | |
|----|---|--|--|
| 国語 | 育成を目指す資質・能力 | 全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書きたいことを見付けたり選んだりする力 自分の思いや考えが明確になるように文章の構成を考える力 (思考力・判断力・表現力) | <ul style="list-style-type: none"> 校内研究での取組等により、自分の考えを書くことへの抵抗感が減ってきた。しかし、全国学力・学習状況調査(6年生)「記述式」の問題形式では、正答率は平均を上回ったものの、無回答率が10%程度見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> 交流活動の工夫により、児童の考えを広げたり深めたりする。 ICTや付箋紙を活用し、文章構成をしやすくしたり、負担感を減らしたりする。 教材文の中にある「自分の考えを表現する型」を使って書く練習を取り入れ、自分の考えを表現する方法(書き方のひきだし)を増やす。 各教科の学習や生活の中で形式等にとらわれず、楽しんで書く機会を増やす。 児童が目的意識・相手意識をもって主体的に取り組めるテーマの設定の工夫をする。 説明、報告、紹介、手紙、新聞等、多様な言語活動を取り入れる。 |

| | | | |
|----|---|--|---|
| 社会 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 学習問題を主体的に考え、課題意識をもって学習に取り組む力 他者と積極的に関わり自分の考えを広げる姿 (思考力・判断力・表現力) 自分の学びを振り返り、学んだことを生活の中で生かそうとする力 (学びに向かう力、人間性等) | <ul style="list-style-type: none"> 社会科の学習が「よくわからない」、「あまりわからない」と回答した児童が、全体の2%であり、他教科と比べ否定的に回答した児童が少ない。 学習問題をつくることを苦手に行っている児童が多く見られる。 学習感想や振り返りを書くことを苦手に行っている児童が多く見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題を身近な視点から見だし、児童が継続的に追求することができるよう、学習展開を工夫する。 課題を児童が自分事として捉え、話し合い活動を通して他者と関わり、学習問題を設定し、学習計画に沿って、課題を解決するという達成感を味わうことができる指導計画を立て、実施する。 学習感想や振り返りを自分事として考え、今後の生活や学習に生かすことができるよう、書く内容を具体的に指示するなど、自分の考えを書くことができるよう、書くことを重点的に指導していく。 |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 算数 | 育成を目指す資質・能力 | 全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <p>数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力(思考・判断・表現)</p> | <p>全国学力・学習状況調査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校のA層の割合は51%を占め、東京都の31.9%を19.4%上回っている。昨年度と比較して、D層の割合が全体の10%となり、下位層(C、D層)の児童が減少した。 ・領域別平均正答率では、「数と計算」78.4%、「図形」75%、「データの活用」74.3%と3つの領域では、昨年度と比較して正答率は上昇し、東京都の平均正答率も上回っている。しかし、「変化と関係」については、71.2%であった。東京都の平均より上回ったものの昨年度と比較して6.1%下回った。 <p>学習評価に基づく課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの結果(3～6年)から平均正答率は60%を超えたものの、下学年の学習内容が十分に身に付いていない児童が複数名いる。 ・校内研究の取組を踏まえて、交流活動を通して自身の考えを表現することへの抵抗感は少ない。しかし、数学的な表現を用いて表現したり、一つの方法で解決したとしても別な方法はないかと考えを進めたりすることは不得手である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの結果からもレディネステストの結果を活用した習熟度別の少人数学習は効果を奏しており、今後も児童の希望も含めた少人数指導を充実させる。 ・ペア、グループ、全体等での話し合い活動、ICTや付箋を使った交流など、さまざまな交流活動の工夫を行い、児童の考えを広げたり、深めたりする。 ・ICTを活用し、自身の課題に応じた内容や課題を選んで取り組むことができるようにする。 ・算数で用いられる表現方法では、言語や図(グラフ)、式(記号)、実物を用いた操作などがあげられるが、それらを適切に用いることができるようにする。 ・他の児童の考えを解釈させ、その続きを考え説明させたり、再現して説明させたり、さらに、他の児童の気づきをヒントにして考え説明したりして説明する力を高めるようにする。 ・学習した内容が日常生活にどのように活かされているのか、活かせるのか考える機会を設定する。 |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 理科 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験結果から得られたことをもとに、まとめる力 (思考力・判断力・表現力) | <ul style="list-style-type: none"> ・理科の「学習を理解している」と回答した児童は全校で9割程度であり、めあてをもって学習することができている。SDGsとの関連を意識し、持続可能な社会の実現のために工夫して問題解決していく力を身に付けさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験における結果から共通点や相違点について考察し、結論を出す。次への課題を見出すことや既習事項との関連性を意識して自身の考えを他者に伝わるようにまとめ、伝え合う活動を取り入れる。 ・ICTを効果的に活用し、より分かりやすく表現できるように繰り返し取り組み、考えを伝える力を向上させる。 ・学習で学んだこととSDGsを関連付け、持続可能な社会を目指すための方策を具体的に考える。 |

| | | | |
|----|--|--|---|
| 生活 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々や社会、自然に関心を持ち、自分とのかかわりで捉える力 (学びに向かう力、人間性) ・自分の体験や気付きを表現する力 (思考力・判断力・表現力) | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍もあり、異学年や地域との交流が減少していることを踏まえ、様々な人や場所との関わりや、それらと自分と関わりについて気付いたり考えたりする場を作る。 ・自分自身の成長への気付きや次の活動に活かされるような知的な気付きなど、気付きの質を高める。 ・対話的な交流を意図的に実施する。 ・想いを伝える手立ての一つとして書くことがあることを知らせ、活用場面を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級だけでなく、学年や異学年、保幼、地域との交流の機会を設定し、相手意識や目的意識をもって、活動や表現につなげられるようにする。 ・活動の中で生まれた個々の気付きを、対話的な学習を通して全体で共有する。 ・他教科と連携した指導を行い、様々な活動や体験を通じて、自らの気付きを広げたり深めたりできるようにする。 ・児童の活動のめあてを意識させ、振り返りを通して、次時への課題意識をもたせる。 ・学びの過程に「伝える」場面を位置付け、工夫して表現する機会を多く設定すると共に、多様な表現方法があることを知らせる。 |

| | | | |
|----|---|--|--|
| 音楽 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中の音や音楽に関心を持ち、創造的にかかわり、生活の中で音楽に親しむ力 (知識及び技能)(思考力・判断力・表現力)(学びに向かう力・人間性等) | <ul style="list-style-type: none"> ・感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりする力を、更に身に付けさせたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた(言葉のやり取りだけでなく、言葉で表したことと音や音楽との関わりが捉えられる)言語活動を適切に位置付けられるようにする。 |

| | | | |
|----|--|--|---|
| 図工 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・経験や交流をとおり、見方や感じ方を広げ、思いや考えを主体的に表現する力(思考力・判断力・表現力等)(学びに向かう力等) | <ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって活動することができている。表現する喜びを感じながら、造形的な活動をとおりして知識・技能を身に付けている。自分なりの表現を追求できるように工夫したことを振り返り、確かめる力を付けたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・めあてを明確にし、活動をとおりしてどんな力を付けたり発揮したりするのか、児童自身が感じられるようにする。また、互いのよさに気付くようにする。そのために図工ノートやタブレット、鑑賞活動などを活用して活動を振り返り、友達との交流を通してよさに気づき、認め合えるようにする。 |

| | | | |
|----|--|--|--|
| 家庭 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・調理や裁縫の基礎的な知識や技能(知識・技能) ・生活の中から課題を見出し、解決方法を検討したり実践の中で表現したりする力(思考力・判断力・表現力等) ・学んだことを活用して生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度(学びに向かう力・人間性等) | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習を「よくわからない」、「あまりわからない」という児童が13パーセントと他の教科より多い。 ・家庭科の学習が将来に役立つととらえている児童はかなり多く、めあてをもって学習することができている。 ・調理や裁縫などの技能、SDGsや環境と家庭科の学習が密接な関わりがあるという視点をもたせ、学習した内容を実践につなげられる資質や能力を身に付けさせたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中から課題を設定し、解決を図るために必要な基礎的・基本的な技能を習得できるようにする。 ・持続可能な社会の構築に向けて、身近な生活と環境を関わらせながら学習活動を進める。環境や資源を大切にする視点をもたせ、循環を実感できるような指導計画の工夫を行う。 ・習得した知識及び技能を活用して、身近な生活の課題を解決したり、家庭や地域で実践したりできるように、学習過程を工夫する。 |

| | | | |
|----|--|--|---|
| 体育 | 育成を目指す資質・能力 | 新体力テスト、学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康についての自己の課題の解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力(思考力・判断力・表現力) ・健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む力(学びに向かう・人間性) | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の体力テストの結果では、6学年中5学年のソフトボール投げと20mシャトルランの得点が全国平均、東京都平均と比べ低かった。 ・平均気温上昇による夏季期間の運動機会の減少や運動量の確保が難しく、運動不足の児童が一定数見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招き、投げ方教室を開催し投力向上を狙ったり、継続的に取り組むことができるよう月1回の体力アップタイムを設定し長縄に取り組ませ、跳力や持久力の向上を目指したりする。 ・年間指導計画のカリキュラムを変更し、夏季期間中の体育指導を行えるようにする。 ・習得した知識や技能を日常生活や業間体育で活用できる場を設定し、すすんで運動に取り組むことができるようにする。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|--|---|--|
| 国際 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力（知識・技能） ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、相手意識を働かせながら、自分の思いや考えなどを適切に表現するコミュニケーション力（思考・判断・表現） ・目標に向かって、目的意識や相手意識を働かせてコミュニケーションを図ろうとする態度（学びに向かう力・人間性） | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の結果によると、「国際科の授業がよくわかりますか」という質問に対し、3～6年生の86%が「よくわかる」「わかる」と回答しており、意欲的に学習していることが伺える。 ・「英語教育実施状況調査」の分析結果から、外国語の4技能（聞く、読む、話す、書く）向上には、言語活動や教師の外国語使用等が重要であることが明らかになっており、外国語教育の、より一層の改善、充実に取り組む必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「伝えたい!」「聞きたい!」という意欲をもてるようなテーマや題材を設定したり、活動を取り入れたりする。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にする。 ・児童一人一人の学び方や興味や関心に即した適切な指導を行うため、ICTを活用し個別最適な学びの充実を図る。 ・NTとさらなる連携を図り、発達の段階や学級の状況に応じたチーム・ティーチングを行う。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|---|--|
| 道徳 | <ul style="list-style-type: none"> ・各授業において、他者との意見交流や自身との対話を通して物事を多面的・多角的に捉えて実生活へ活かそうとする態度。（学びに向かう力、人間性など） | <ul style="list-style-type: none"> ・全校の学校評価の結果から、「道徳の勉強はよくわかりますか」の質問に対して、肯定的な回答をした割合は令和5年度は89ポイントであったが、令和6年度は96ポイントに上がった。 ・価値項目の中で、「挨拶をすすんでする」ことに対して否定的な回答をした児童は20ポイントであり、他の項目と比べて否定的な回答をした児童が多かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に行われた「道徳授業地区公開講座」での授業公開や講師による講演を通して、家庭と学校との情報共有を図る。 ・昨年度に引き続き、全学級、授業であいさつについて取り上げ、自らすすんであいさつを行う意識を高める。 ・特別活動で、たてわり班での「あいさつ運動」を行うことで、自分から気持ちのよい挨拶をする礼儀正しい児童を育成する。 ・授業での教材文の提示の際に、場面絵を提示することや、発問の工夫により自分事として考えられるようにする。 ・登場人物の心情の変化を通して、自分自身についての振り返りを書かせるようにする。また授業内で発表しあうことで、新たな気づきをさせる。 |

| | | | |
|------|---|---|---|
| 特別活動 | 育成を目指す資質・能力 | 学級活動、学校行事等の課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要となることについて理解し、行動する力。(知識・技能) よりよく生きるために、自分に合った目標を設定し、価値観や個性を受け入れ、よりよい人間関係を築いていく力。(思考力・判断力・表現力) | <ul style="list-style-type: none"> 異学年交流の場を行事予定の中に意図的に設定し、顔合わせ集会やなかよし集会、年2回のあいさつ運動、児童集会や音楽集会などを実施してきたが、児童数が増えこれまでの活動を見直す必要が出てきた。より児童主体の活動ができるように内容を見直し、高学年が運営を行えるように適切な支援を行い、低中学年には、上級生の姿をロールモデルとできるように日常や行事を通して、指導を重ねていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 各活動のねらいとゴールを児童と共に明確に設定し、児童が見通しをもって主体的に取り組むことのできる計画を立てる。児童が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力したり、合意形成をしたりしながら、活発な活動が展開されるように発達段階に応じて、各学年で指導を積み重ねていく。授業や学級会など日常的な経験によって意識的に育成していく。 異学年交流としての縦割り班やペア学年で行う行事を日常的に計画し、上級生のリーダーシップを育み、下級生は上級生の姿から、なりたい自分の姿や将来をイメージさせる。 めあてや役割分担、達成状況や学びを蓄積し、振り返るために、キャリアパスポートを意図的に活用することで、個人の活動に対する価値付けを行う。 |

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| 総合的な学習の時間 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習の課題を設定し、それらを解決するために必要な方法を選択し、追究し続けていく力。(思考力・判断力・表現力) | <ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習課題を設定することで、児童が主体的に学習しようという意欲を引き出すことができてきた。各教科で学んだ知識や技能を生かし、児童が課題解決に向けてねばり強く探究し続けることができるよう支援していく。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域、自らの将来等、学年で身に付ける力を明確にし、実社会・実生活に生かせる指導計画を立てる。 各教科で身に付けた学習内容を活用して課題を追究する方法の選択肢を広げ、問題解決能力の向上を図る。 SDGS への取組をすることで、身近な課題に気付き、課題解決をしようとする意欲をもたせる。 校内のビオトープを活用した環境学習を推奨していく。 |